

平成 29年度 山梨県立甲府昭和高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	創立34周年を迎え、「これ学んだ、これができる、この力を持つている」の自信の輪を広げよう。 ～学校の教育力、組織力をさらに向上させ、生徒一人一人に応じた教育を実現する～	
本年度の重点目標	生徒の学ぶ意欲を向上させ、資質・能力を育成する教育を推進し、生徒の可能性を伸ばす。	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	さわやかな教育の実践を通して、主体的、協働的に行動できる生徒を育成する。	B 概ね達成できた。(6割以上)
	安心・安全に学べる学習環境を整え、地域に貢献する学校づくりを目指す。	C 不十分である。(4割以上)
		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立甲府昭和高等学校  
校長 井上 耕史

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

本年度の重点目標			年度末評価(平成30年3月9日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	
				達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	生徒の学ぶ意欲を向上させる。	明確な授業目標を提示した指導	生徒授業アンケート	B	・生徒授業アンケートで91%の生徒が授業目標の明確化がされていると回答。 ・これが家庭学習時間の確保を伴う生徒の学習意欲向上に結びつく方策を立てた。 ・評価の観点を生徒が意識できるシラバスを作成、生徒に理解させる方策を立てる。 ・「生徒に身に付けさせたい資質・能力」を策定したが、次年度においては各教科及び特別活動において資質・能力のどの部分を育成目標とすることを明確化したい。 ・「生徒に身に付けさせたい資質・能力」をキャリア教育の視点でも捉え、学習意欲及び学力の向上に加え、生涯学習につながる具体的方策を策定実施したい。
		多様な観点による評価	生徒授業アンケート、教職員アンケート	B	・教職員の92%が多様な観点による評価を実施と回答。 ・生徒の92%が教師の評価に納得できると回答。
1	生徒の資質・能力を育成する教育を行う。	生徒の学力向上につながる授業改善	相互授業参観実施状況、生徒授業アンケート	B	・相互授業参観数を、年間4回/人として設定したが、結果は3.0回/人であった。 ・生徒の76%が目標としている学力がついたと回答。
		生徒に向きあう機会・時間を確保するための積極的な業務改善	教職員アンケート、業務改善実施状況	B	・相互授業参観の実施方法を工夫したい。 ・業務改善については、H29の成果を受けて、実行可能なH30計画を立案したい。 ・紫映タイムについては、32単力セット方式との折り合いを図りながら、実施方法とともに継続の有無を含めて検討する。 ・H30年度入学生よりClassiを導入し、新高大接続改革への対応、生徒の学力向上、生徒・保護者へのきめ細やかな指導及び教職員の業務改善を目的として活用していきたい。
2	規範意識を向上させるとともに、さわやかな挨拶、さわやかな服装、さわやかな行動の実践力を養う。	登校時指導、自転車安全点検、原付講習会等交通安全指導	交通事故・違反件数	B	・交通事故・違反件数は、H28の事故42件・違反9件からH29は事故43件・違反3件に推移した。 ・教職員の83%が登校時指導が「さわやか教育」推進に寄与と回答。 ・5分前遅刻者数(1月末現在)は、H28の延べ172人からH29の延べ167人に微減。
		挨拶運動、服装指導、5分前行動励行	教職員・生徒アンケート	B	・生徒が探究活動の方法を計画的に学ぶ機会を確保するとともに、教職員の研修機会を設定したい。 ・探究活動への活用を目的として「ホワイトボード」及び「iPad」を整備したが、校内のICT環境整備とともに実際の活用機会を増やす具体的方策を教科や総学担当分掌により工夫実施したい。
2	様々な場面において、当事者意識を持ち行動するとともに、他者との協力で物事に取り組む力を育む。	主体的・対話的な学びを伴う生徒会活動及び特別活動等	教職員・生徒アンケート、生徒授業アンケート	B	・生徒会活動・特別活動において、「生徒ができることは生徒に委ねる」意識を持って、企画・運営に生徒を巻き込みたい。 ・生徒が探究活動の方法を計画的に学ぶ機会を確保するとともに、教職員の研修機会を設定したい。 ・探究活動への活用を目的として「ホワイトボード」及び「iPad」を整備したが、校内のICT環境整備とともに実際の活用機会を増やす具体的方策を教科や総学担当分掌により工夫実施したい。
		総合的な学習の時間およびSGHアソシエイト活動における探究的活動	教職員・生徒アンケート、生徒授業アンケート	B	・教職員の96%が主体的・対話的な生徒会活動・特別活動と回答。 ・70%の生徒が自主的計画的で活発な生徒会活動と回答。 ・教職員の89%が主体的・協働性を育成するための探究活動が企画・運営と回答。 ・72%の生徒が、探究活動により課題解決能力が向上と回答。
3	いじめ・体罰・学校事故のない学校づくりと生徒・教職員の危機管理意識を養う。	本校のいじめ防止基本方針に基づく教育活動	いじめ・体罰調査教育活動	B	・いじめアンケートは、「該当なし」という結果であった。 ・体罰調査は、「該当なし」という結果であった。 ・災害発生時「アラート発動時行動マニュアル」や「防犯マニュアル」を見直し、教職員及び生徒の危機管理意識をさらに向上する方策を立てるとともに、関係方面との連携により施設設備面でも対応を図りたい。
		教職員の服務規律向上のための研修会、危機管理マニュアルの実践	教職員アンケート	B	・教職員の服務規律向上のための研修会を計画的に実施し、94%の教職員が必要な研修会が実施されたと回答。
3	昭和町を中心とした地域での小中高の連携活動により、地域貢献を果たす。	昭和町小中高連携事業の推進	小中高合同会議での事業への反省	A	・生徒の発案により、コンタクトレンズケース回収というあらたな連携事業を実施した。 ・英語教育における昭和町内の小中高連携を来年度以降も実施していく。本校としての活動目標を明確化していくとともに、特に小学校教員対象の英語授業研修の実施を視野に入れ計画を立案したい。 ・本校教育活動の主旨を理解し、地元の良い姿を伝えられる地域人材を確保していきたい。
		昭和町英語教育強化拠点事業の推進	研究報告による検証	A	・英語教育における昭和町内の小中高連携を来年度以降も実施していく。本校としての活動目標を明確化していくとともに、特に小学校教員対象の英語授業研修の実施を視野に入れ計画を立案したい。 ・本校教育活動の主旨を理解し、地元の良い姿を伝えられる地域人材を確保していきたい。

学校関係者評価	
実施日(平成30年3月16日)	
評価	意見・要望等
3	・「授業目標の明確化」「多様な観点による評価」において、いずれも高い評価となっており、生徒の学習意欲の向上につながるものと確信する。 ・授業目標が明確に提示された指導方法について評価する。 ・業務改善については、現場の状況により困難もあると思うが、ひいてはきめ細やかな生徒対応や研究時間の確保にも結びつくものであると考える。乗り越えなければいけない課題を検討しつつ、改善に結びつけていきたい。 ・アクティブラーニングの取り組み実践での自主・成果を期待している。 ・「相互授業参観の実践方法を工夫したい」とあるが、具体的などの様にいつから分かつらいつらいつら、早くに取り組んだ方がよいと考える。 ・希望する職業に就くためには「今は何を学ぶ必要があるのか」という問題意識を早期に持たせ、この必要性から学習意欲向上に繋げる方策とその実施に期待する。 ・「キャリア能力育成」の観点からも、授業実践において来年度は、Can-doリスト活用方法を「検討」ではなく「実現」を目指してほしい。 ・「紫映タイム」や「きずなの日」の活用については、生徒・教職員の目的意識の共有と主体性が更に必要と考える。(自己評価結果からは、自立型成長があったのかがわかりにくい。) ・高大接続改革への対応について、具体的な対策が進みつつあることが理解でき、学力向上へ向けての先生方のご苦労が実感できた。 ・ポートフォリオの機能(授業・学習コンテンツ、生徒カルテ、コミュニケーション)を最大限に活用した教育指導業務の効率化により、実効性のある教職員の業務改善をお願いしたい。 ・新しいシステムも導入され、常に生徒のために工夫する教職員の努力が感じられる。 ・保護者用アンケートで、「わからない」という回答(生徒会活動21%、PTA活動24.6%、生徒の声が反映は32.6%)が多いのが気になることである。
3	・様々な工夫をして生徒指導にあたられていることがよくわかる。年々改善されていることも評価できるが、安全・安心に対する生徒の意識を、さらに高めてもらいたい。日ごろ見かける昭和高校生からは、あいさつや交通安全の面で指導の成果が見取れる。 ・遅刻者、規則違反者数、交通事故違反者数はあまり変わらないが、教職員の早朝よりの指導の成果は着実にあると感じている。 ・月に1回、5分前行動が大きく進捗する原因は何かあるのかと思う。分析と対応策を見出す努力をお願いしたい。 ・本校の「さわやか教育」が現在でも生徒に浸透していることをうれしく思う。生徒会活動においても「自主創造」の精神を育む機会となっていると思う。 ・概ね、生徒の規範意識の向上と当事者意識を持ち行動するという指導がなされていると感じる。 ・生徒会活動や特別活動における企画・運営の場面を活用して、社会に出てから必要とされる様々な実践的能力の向上に寄与できる指導を期待する。 ・「ライブラリー講座」などの現代社会を生き抜くために必要な知識が得られる教養講座の実施を高く評価する。当該講座の継続的な実施をお願いしたい。 ・「主体的・対話的な深い学び」「探究的活動」においては、教師と生徒の評価に若干のずれはあるものの、良好な状況であると思う。学習環境の整備、活用について、さらなる工夫に期待したい。 ・探究的活動において、生徒が課題解決能力向上を実感していることについて評価する。 ・ICT環境整備は早急に対応すべきで同様、教職員のフォロー体制が必要と考える。 ・新たな事業評価として、ICT化(ポートフォリオをデジタル化)による大学出願への対応のための環境整備を期待したい。
4	・いじめ、体罰のない学校づくり「危機管理意識」については、たいへん良い状況であると理解できる。先生方の日々の努力に感謝したい。多くの生徒が集団生活を送る場所であるので、トラブルはつきものであると思うが、これまでどおり、迅速かつ丁寧な対応をお願いしたい。 ・いじめ体罰が「該当なし」は大いに評価できるが、継続的なSCの確保は必要不可欠と思われる。 ・「規範的な生徒の安心・安全」を確保するために、生徒と教職員に対する危機管理意識の涵養をお願いしたい。 ・LHR、学習時間、特別活動等への活動成果や服務規律についての職員研修の実施で安心安全な校風が構築されていると感じる。 ・「安心・安全な教育環境」は学校選択の要素の一つとしても重要でアル。貴重な3年間をできるだけよい環境の中で過ごす学校へ通わせたいという親の思いは強いものがある。 ・HPの活用アクセス数が増加している事で地域の内外にも浸透していると思う。 ・今年度、コンタクトレンズ回収に協力させてもらった。小中高連携は、この地域の財産でもあり、大きな成果を上げている。他の地域からも、その実績を評価されている。今後とも協力体制を維持、発展させていきたい。 ・高大接続改革は、中学校への影響も考えられる。小中高連携の中で工夫できることがあれば、検討していただければと思う。 昭和町との連携等については自己評価がB判定からA判定になったことは今後にも期待できる。 ・いじめ・体罰のないこと昭和町等との地域連携教育はすばらしいと思う。今後も小中高の連携教育の推進をお願いしたい。 ・地域貢献として実施した「生徒発案による新規連携事業」および「英語教育強化拠点事業における公開研究会」を高く評価する。 ・地元の良い姿を伝えられる人材確保をどのように組み立てていくかは興味深い取り組みに感じる。

※※※ (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。